1−3 ストリングスの編成について

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

OTO×NOMA

ストリングスの編成について

ストリングスの編成は以下の5パートで構成されている。

- ✓ 1st Violin
- ✓ 2nd Violin
- ✓ Viola
- ✓ Cello
- ✓ Contrabass（Doubebass）

ちなみにContrabass（Doublebass）は、Celloの１オクターヴ下で低音を支えることが多いパートなので、ポップスやロックなど、エレキベースがいる場合はコントラバスをオミットすることも少なくない。

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

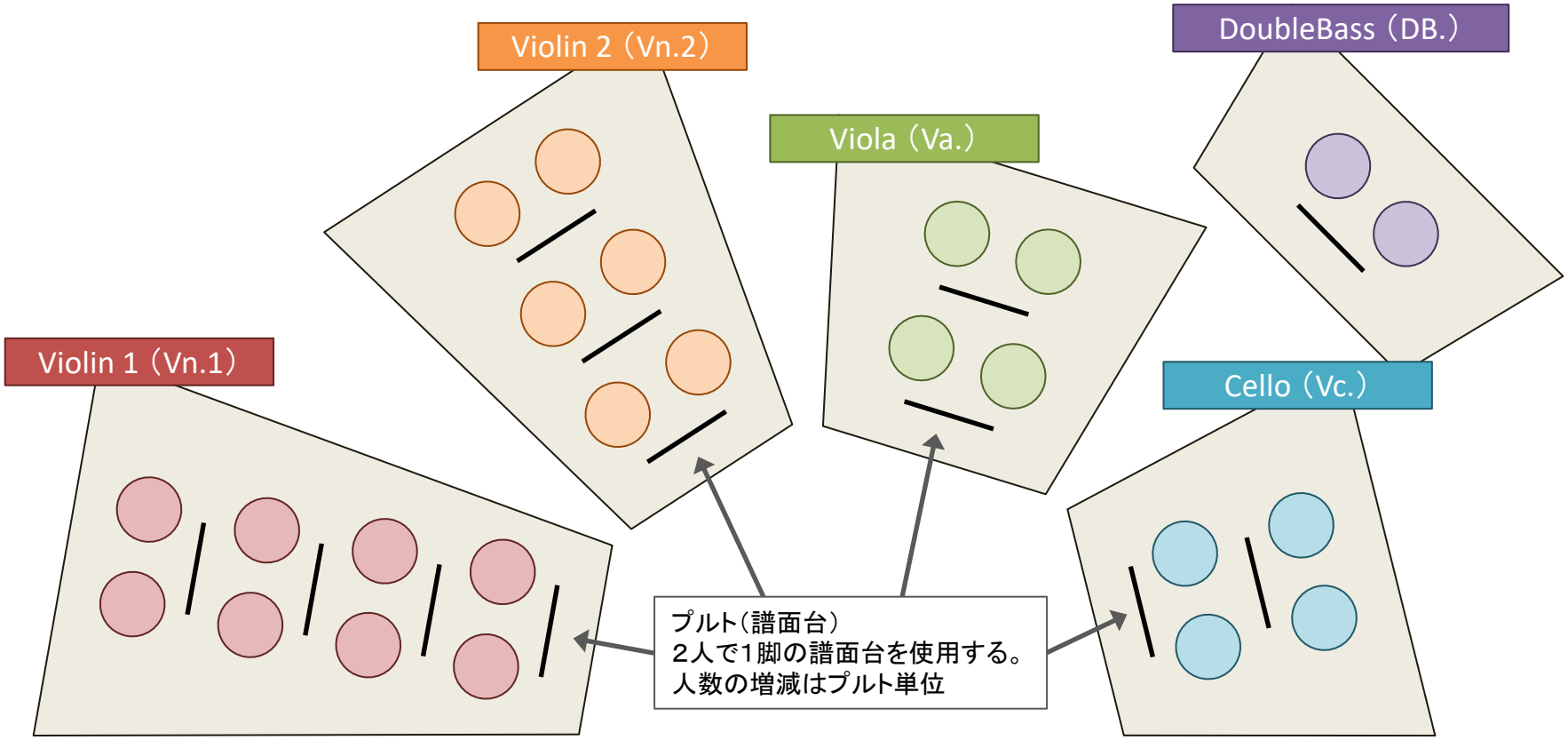
OTO×NOMA

ストリングスは、原則２人１組で演奏される

ストリングスは、基本的に２人１組になって編成されるのが鉄則で、この２人１組の単位を「プルト」と言う。
「プルト」とは「譜面台」のことで、ストリングスのプレイヤーは１つの譜面台を２人で共有しながら演奏することに由来する。
この「プルト」という考え方は、ストリングスの編成や人数を語る上で欠かすことのできないものなので覚えておこう！

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

ストリングスの編成（8型の場合※）



【※8型とは？】 ストリングスの規模のこと。1st Violinの人数によって決まり、4型、8型、12型など様々。

8型の場合1st Violinは4プルト（8人）となり、2ndは3プルト、ViolaとCelloは2プルトずつ、DoubleBassは1プルトとなる。

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

OTO×NOMA

ストリングスと和声学の関係

ストリングスは和声学に基づいてアレンジされることが多い。
和声学とは「ソプラノ、アルト、テノール、バス」という4つのパートを使って
和音を組み立てるのが鉄則で、混声四部合唱がまさにそれ。
ストリングスの各パートと和声楽の関係性は以下の通り。

- 1st Violin → ソプラノ
- 2nd Violin → アルト
- Viola → テノール
- Cello → バス
- Contrabass → Celloのオクターヴ下でバスの補強

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

OTO×NOMA

ストリングスの人数について

ストリングスには、人数によって「８型」「１２型」といった型が存在する。
この数字はそれぞれ1st Violinの人数を表しており、以下のような意味を持つ。

- 「８型」のストリングス = 1st Violinが８人編成のストリングス
- 「１２型」のストリングス = 1st Violinが１２人編成のストリングス

ちなみに、オーソドックスな2管編成のオーケストラでは１２型が基本。
対して8型は、主に現代の商業音楽におけるレコーディングでよく使われる型なので覚えておこう！

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

ストリングスの人数の決め方

1st Violinの人数さえ決まってしまえば、高音を担当するパートから順に1プルトずつ減らすことで全体の人数を決めることができる。

■例)「12型」の場合

- 1st Violin → 6プルト(12人)
- 2nd Violin → 5プルト(10人)
- Viola → 4プルト(8人)
- Cello → 3プルト(6人)
- Contrabass → 2プルト(4人)

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

OTO×NOMA

ただし例外も・・・

- 「8型」→「86442」
- 「6型」→「64221」
- 「4型」→「43221」
- 「ダブカル」→「2222」

これらの型は、現代の商業音楽におけるレコーディングでよく使われるもので、予算とサウンド感のバランスが良い型として重宝されている。

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO